

三木市特定教育・保育施設評価 評価結果報告書
(平成30年度)

園名 (えびす認定こども園)

	評価基準	評価内容
I	心の育ちを優先し、生きる力の基礎を育む教育・保育	○温かい雰囲気の中で、子どもたちが生き生きと活動している。それぞれのクラスの中で、子どもの主体性が大切にされると同時に、異なるクラス間での交流がみられ、自然に人との関わりを学びながら生活している。
II	異年齢集団での遊びや生活を通して社会性を培う教育・保育	○普段の遊びの中で、異年齢の子どもたちが自然に行き来しており、互いに良い影響を与え合うように計画的に保育が進められている。それぞれのクラスでも、子どもたちと保育者がコミュニケーションを活発にしながら遊びが進められているので、社会性が豊かに発達する環境にあると言える。
III	自尊感情を育むとともに豊かな人権感覚を養う教育・保育	○子どもたちのやりたいことや願いを上手に取り上げながら、日々の遊びや活動に取り組んでいる。子ども一人一人に対して肯定的な言葉が投げかけられ、自信を持って生活できるように心がけられている。異年齢交流の中で、思いやりの心が育まれ、グループ活動の中でもお互いを認め合うような雰囲気が作り出されている。
IV	小学校との連携	○就学先の8つの小学校と年1～2回連絡会を設けている。交流小学校へは、運動会や音楽会等の行事の際に、園から遊びに行ったり、親子で参加したりしている。

V	教育・保育の内容の保護者への説明	○入園説明会時に、保育理念を明示した入園のしおりを配布して説明している。クラスごとの保育目標を記載した園だよりを配布している。行事での挨拶時や園だより、ドキュメンテーション等で、保育方針を行事等の具体的取組と関係づけて情報発信している。
VI	保育教諭の資質向上のための取組	○園内外研修・伝達研修・プチ研修・キャリアアップ研修等の機会を設け、職員の参加を促している。職員会議・クラス会議・担当者会議等で意見交換を行い、保育の姿勢等について助言・指導を行っている。職員会議で使用した資料は、パート職員にも配布し、議事録も閲覧により周知している。
VII	安全管理	○事故等各種のリスクに対する安全管理マニュアルを整備し、職員会議でのマニュアルの読み合わせ時に内容の周知を図っている。避難訓練計画に沿って避難訓練を実施している。毎月、遊具や施設の安全点検を行い、修理が必要な時は即刻修理を行っている。アレルギー対応等では、保護者との情報交換を密にし、健康管理に努めている。
VIII	地域の子育て拠点としての取組	○園庭開放、園見学、えびすっ子クラブ等、親子が遊びにくる機会を設けている。特養やデイサービスと交流を持ち、七夕や節分会で歌を披露している。
IX	地域において子育て支援を行う団体との連携	○特別支援教育コーディネーター連絡会・心理士による児童相談・言葉の教室等子育て支援団体と連携をとっている。人形劇ボランティア団体が来園し、0・1・2歳児とえびすっ子が一緒に人形劇を見る機会がある。